

(個別目標)

- 地域がん登録データについて研究目的で利用申請された件数（平成 23 年度：6 件）を増加させます。

8 小児がん・希少がん対策

(現状)

- がんは小児の病死原因の第一位です。小児がんは成人のがんと異なり生活習慣とは関係なく、乳幼児から思春期、若年成人まで幅広い年齢に発症し、希少で多種多様ながん種からなります。
- 本県における小児がんの年間罹患数は、20 人前後ですが、県内の医療機関での対応が難しい事例も考えられます。この時、交通費や付き添いに伴う滞在費用等、家族の経済的負担が大きくなります。
- 小児がんの治療は、長期間の入院を要することが多いために家族が離れて過ごさなければいけません。患者だけでなく、患者のきょうだいの心のケアについてもきめ細やかな配慮が必要です。
- また、主に県北部を中心とした地域は、ATL（成人 T 細胞白血病）の発症が全国に比べて高い地域とされています。ATL は、HTLV-1（ヒト T 細胞白血病ウイルス）を原因とする血液のがんであり、一般的に予後はよくありません。HTLV-1 感染者が必ずしも ATL を発症するわけではなく、また断乳や短期授乳などの工夫により母子感染のリスクを低減させることができますが、精神的な面も含めて対策が必要です。

(取り組むべき施策)

- 県
 - ・県内の医療機関と小児がん拠点病院との連携促進
- 市町
 - ・妊婦健診（HTLV-1 抗体検査）の受診促進
- 医療機関
 - ・小児がん拠点病院との連携
 - ・晩期障害、再発等長期フォローアップ体制の確立
 - ・終末期に苦痛なく過ごすことができるよう小児がんに対応できる緩和ケアチームの確立
 - ・初期診断時に患者やその家族が納得して治療を開始できるようセカンドオピニオンの活用についての普及啓発
- 関係機関
 - ・入退院に伴い教育支援が円滑に進むよう教育関係機関との連携
- 県がん診療連携拠点病院（佐賀大学医学部附属病院）
 - ・HTLV-1 専門外来での相談支援

(個別目標)

- がん診療連携拠点病院と小児がん拠点病院との連携体制を構築します。